

土山實男教授をお送りするにあたって

国際政治経済学部長 内 田 達 也

土山實男先生は本学部創設 3 年目の 1984 年に国際政治学科に就任され、その後 35 年の長きにわたり、本学、本学部の研究・教育にご尽力いただきました。その間、国際政治経済学部長・研究科長、大学副学長その他、大学の多くの役職を歴任され、大学、学部を支えていただきました。ご退職に際し、学部長として、本学でのお勤めに対して感謝の気持ちを込めて、御礼申し上げます。

土山先生には、学部では「国際政治学」や「国際安全保障論」、大学院では「安全保障理論」、「安全保障政策」といった学科、専攻の根幹をなす科目をご担当いただきました。先生の授業は学生に人気で、多くの優秀な学生が土山先生の授業を受け、また演習で鍛えられて、巣立って行きました。先生の教え子には学術の世界や国防に携わる者なども輩出されています。

土山先生が学部長の任期中に行った大きな改革の一つが、2006 年の国際コミュニケーション学科新設です。2001 年に国際経営学科が国際マネジメント研究科に改組され、国際政治経済学部は 2 学科体制の時期が 5 年間続きました。この時、学部の弱体化を危惧され、将来の学部の基盤を作るために構想されたのが国際コミュニケーション学科です。現在、国際コミュニケーション学科は設立 10 年を超え、学部の大きな柱を担っています。本学の国際政治経済学部が他大学の国際系、グローバル系の学部とは際立っている点の一つは、国際コミュニケーション学科が国際政治学科や国際経済学科と並列して存在している点にあると言っても過言ではありません。このような改革を進められた土山先生の慧眼に改めて感服いたします。

土山先生は福井の出身でいらして、何かの折に、福井が芸術や工芸の伝統の

ある地域であり、それが今日の産業にも繋がっていることを先生から教えていただきました。その時に合点がいったのは、土山先生が大学や学部を表現したり、形作ったりするときのセンスです。それは単に見栄えの良さということではなく、本質的なものを見抜いてそれを美しく表現していくということで、それはもちろん学問においても発揮されていたと思いますが、学部のパンフレットや卒業祝賀会といったイベントなど、細かいところにも気を配られていました。

学部運営に困ったとき、私はよく土山先生の研究室の戸を叩き、相談に乗っていただきました。先生は学部の行く末を常に案じておられ、学部や大学の歴史についてもよく教えてくださいました。また、学部の教員がもっと打ち解けて、自由に話したり、遊んだりできる雰囲気を作りたいとおっしゃっていました。私も全く同感です。先生は現在国際安全保障学会の会長をされ、そちらでの活躍も大いに期待されますが、これからも青山学院大学国際政治経済学部を見守ってくださいますよう、お願いいたします。